

基本方針	目標	施策	目標年次					評価
			2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	
月形町に安心して暮らし続けられる生活交通の確保 ～いま、町民とともに公共交通網をつくり、守り、育てるとき～								
目標 1 町民の広域的な生活交通を支援する公共交通の確保								
		施策① 当別・札幌方面及び浦臼方面への生活移動の確保に資するJR札沼線廃止代替バス路線の検討	○	●	●	●	●	令和2年4月1日運行開始 ・月形浦臼線 ・月形当別線
		施策② 月形線の利便性向上に向けた取り組みの検討	○	○	●	●	●	使いやすいダイヤ設定 ・学園都市線との接続（月形当別線、月形浦臼線） ・月形線と月形浦臼線、月形当別線との接続 ・月形高校の要望対応
目標 2 町内における利便性の高い公共交通の導入								
		施策③ 郊外部における居住形態を考慮した予約運行型乗合交通等の導入	○	●	●	●	●	令和2年度乗り合いハイヤー（実証運行） 令和3年度定額ハイヤー（実証運行） 令和4年度定額ハイヤー（本格運行）
		施策④ 広域交通との円滑な乗り継ぎを支援する観光も考慮した町内交通の検討	○	●	●	●	●	岩見沢市、当別町と鉄道との接続を考慮したダイヤ設定を行った。
目標 3 乗り継ぎの利便性を向上させる交通結節点の創出								
		施策⑤ 交通結節点における機能の検討	○	○	○	○	●	バスターミナル機能を持った地域拠点施設整備は、今後も継続して協議を行う。

表 7 施策推進スケジュール（施策⑥から施策⑩まで）

基本方針	目標	施策	目標年次					評価
			2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	
月形町に安心して暮らし続けられる生活交通の確保 ～いま、町民とともに公共交通網をつくり、守り、育てるとき～								
目標 4 町民や観光客などの積極的な公共交通利用を促す利用促進策の展開								
		施策⑥ 交通結節点におけるバスマップ配布などの情報提供機能の強化	○	○	●	●	●	月形役場を交通結節点とし、バスマップを配布
		施策⑦ 広報誌やホームページを活用した情報発信の実施	○	●	●	●	●	広報誌、HP（町、事業者）、IP電話で情報発信
		施策⑧ 公共交通に関する地域への出前講座や地域・各種団体への説明会の開催	○	●	●	●	●	地域サロン、社会福祉協議会サロン、民生委員児童委員協議会ほか説明会を実施
		施策⑨ 児童・生徒や高齢者等に対する乗り方講習や利用体験の実施	○	●	●	●	●	こども園年長児・学童保育所の児童を対象に、中央バス岩見沢営業所の協力のもと、公共交通体験学習事業を実施（南空知圏域広域加速化事業）
		施策⑩ JR札沼線沿線4町への観光誘客を目的とした鉄道レガシーを活用した新たな観光施策の検討	○	●	●	●	●	・旧石狩月形駅周辺整備検討中 ・ヘッドマーク等の展示 ・イベント実施（令和4年度跡地ウォーク、町民による廃線イベント）

(1) 計画の目標

目標1 町民の広域的な生活交通を支援する公共交通の確保

本計画で町民ニーズに即した廃止代替バスの導入及び月形線の見直しを予定していることから、2つのバス路線の平日の利用者数の増加を指標として設定します。

評価指標	現況値 (2018)	目標値 (2023)	実績 (人/日)			
			2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)
町内における廃止代替バスの平日利用者数の増加	142人/日 ※1	160人/日	51	41	47	40
町内における月形線の平日利用者数の増加	109人/日 ※2	120人/日		76	59	54

※1 町内に立地しているJR札沼線5駅での平日乗降者数の合計

※2 月形線における町内運行区間での平日乗降者数の合計

目標2 町内における利便性の高い公共交通の導入

本計画で導入を検討する予約運行型乗合交通等の導入を行うことで、郊外部において、これまで自由に外出することができなかった町民が、利用したい時間帯に外出することができるようになることから、町内を運行するハイヤーの利用者数を含む町内交通の年間利用者数の増加を指標として設定します。

評価指標	現況値 (2018)	目標値 (2023)	実績 (人/年)			
			2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)
町内交通の年間利用者数の増加	10,758人/年 ※3	11,850人/年	9,625	7,580	9,849	10,214

※3 町内移動でハイヤーを利用している方の年間合計

目標3 乗り継ぎの利便性を向上させる交通結節点の創出

現在、本町で策定を進めている月形町地域拠点化整備基本構想と連携した交通結節点を創出することで、各種公共交通を利用した方が交通結節点に集まることが想定されることから、交通結節点の平日の利用者数の増加を指標として設定します。

評価指標	現況値 (2018)	目標値 (2023)	実績 (人/日)			
			2020 (R1)	2021 (R2)	2022 (R4)	2023 (R5)
交通結節点の平日利用者数の増加	112人/日 ※4	130人/日				73

※4 旧月形駅及び月形役場での平日の乗降者数の合計

目標4 町民や観光客などの積極的な公共交通利用を促す利用促進策の展開

本計画に基づき実施する利用促進策の展開で、バス路線の運行情報の発信を行うことにより、町民の積極的な公共交通利用につながることを想定されることから、町民における公共交通の利用割合の増加を指標として設定します。また、JR札沼線の鉄道レガシーを活用した観光施策を展開することにより、本町の年間の観光客数の増加を指標として設定します。

評価指標	現況値 (2018)	目標値 (2023)	実績			
			2020 (R1)	2021 (R2)	2022 (R4)	2023 (R5)
町民における公共交通の利用割合の増加	21.7% ※5	25.00%				22.1
年間の観光客数(町内観光施設等の利用者数)の増加	117,000人/年 ※6	130,000人/年	101,102人/年	87,764人/年	103,984人/年	111,483人/年

※5 町民の買い物や通院における公共交通(JR札沼線、月形線、江別・月形線、スクールバス、ハイヤー)の利用割合

※6 2017年時点